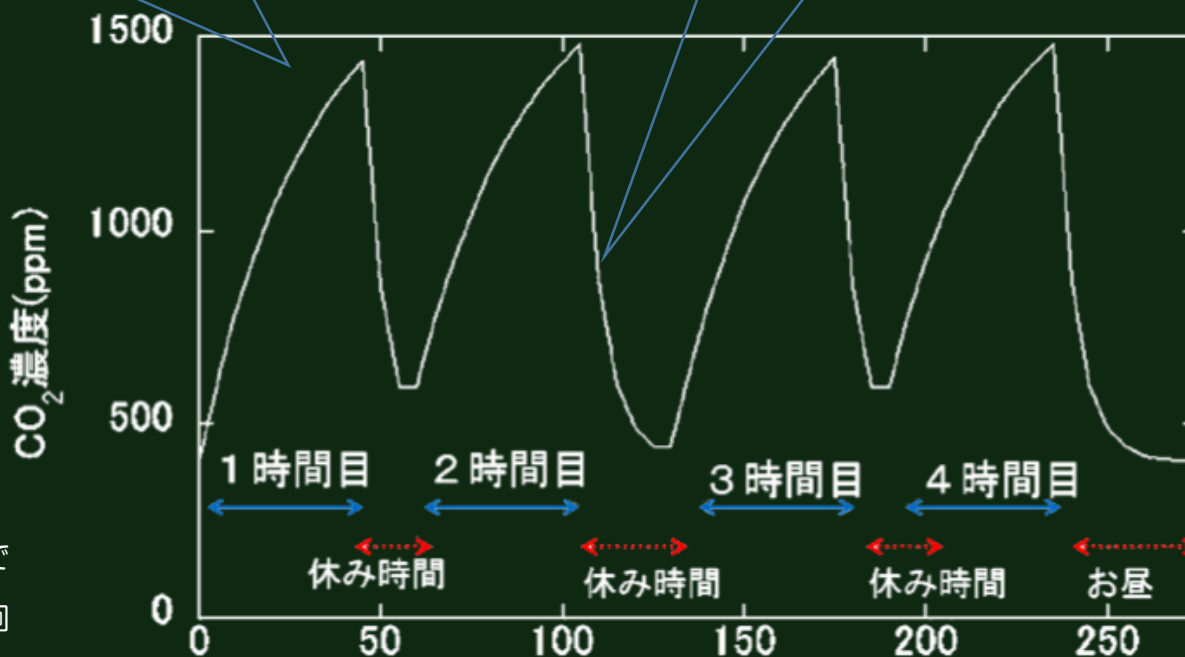


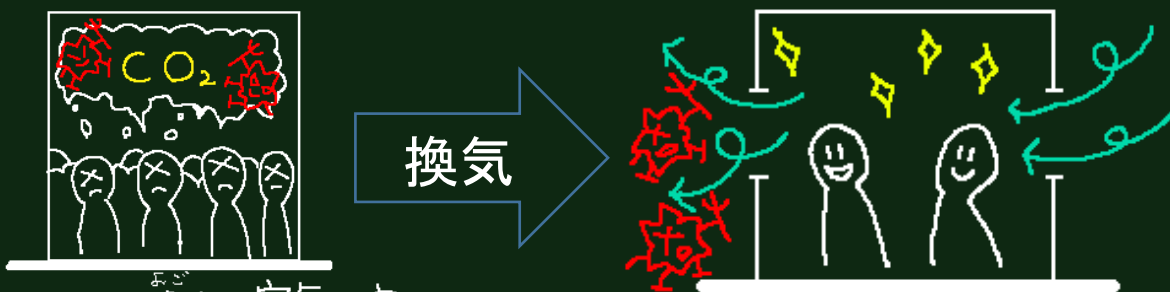
授業中に
二酸化炭素濃度が増加！

休み時間に窓を開けて
換気すると、このように
濃度が下がります！



	がいき おんど 外気温度 (℃)	しつないおんど 室内温度 (℃)	しつないそうたいしつど 室内相対湿度 (%)	しつないにさんか たんそ 室内二酸化炭素 のうど 濃度 (ppm)	まどとあ 窓戸を開けて わりあい いた割合 (%)
夏	27.3	26.8	60.4	879	66
春秋	17.9	21.3	51.7	1013	58
冬	12.1	18.3	41.6	1157	40

この表は、平成 19 年から平成 24 年までの 5 年間に世田谷区の 11 の小学校教室で測定されたデータの結果です。各教室では春および秋に各 1 回、夏に 2 回、冬に 2 回の測定がされていますので、この表では 3 つの季節ごとの平均が掲載されています。夏は窓や戸を開けている割合が多いので、換気によって人間の呼吸から出る二酸化炭素濃度が低くなっています。一方、冬は窓や戸を開ける割合が少なくなり、換気量が減って二酸化炭素濃度が高くなっているのがわかります。換気が足りないと、インフルエンザが蔓延したり、空気が汚れてしまいます。休み時間などは換気をこころがけましょう。



汚れた空気の中には
インフルエンザの菌も含まれ
ているかもしれません。

換気でキレイな空気！

二酸化炭素とは私たちの呼吸によって出てくる物質です。CO₂（シーオーツー）とも呼ばれる二酸化炭素それ自体は一般的には不快をもたらす物質ではありません。しかし、人体から出てくる物質は CO₂ 以外にもたくさんあり、その中には汚染物質もあります。測定のしやすい CO₂ の濃度は、換気量の目安となっています。CO₂ 濃度が高いと換気量が足りていないことを示します。左の表の中の [ppm] とは空気中にどれだけの CO₂ が含まれているかを表す単位です。室内では CO₂ が 1000ppm 以上になると換気量が足りない状態で、集中力が低下したり、インフルエンザが流行りやすくなると言われています。皆さんが健康的に生活し、勉強に集中するには実は換気による空気のバランス調節も大事なのです。上の図を見ると、休み時間の窓開けによる換気は授業中に増加した CO₂ 濃度を下げるのに効果的なことがわかります。